

漁港は
魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

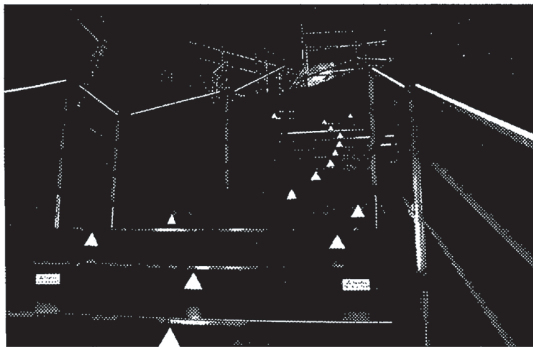
平成25年5月15日 発行
毎月 1回15日発行
公益社団法人 全国漁港漁場協会
田中 潤 児
東京都港区赤坂1-9-13三会堂ビル8階
電話 東京(5114)9981
定価 1部 70円
(会員の購読料は会費の中に含む)

(一財)漁港漁場
漁村総合研究所

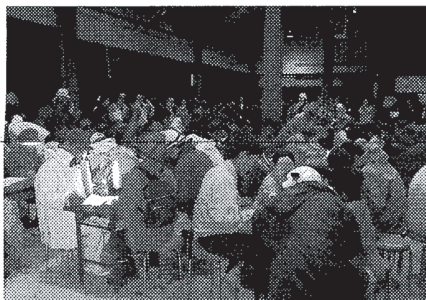
暗闇時の避難誘導に関する 公開実験を実施



避難高台に向かう53段の階段



蓄光材を付けた階段



アンケートを記入する参加者

状況を設定した。実験当日は、小雨が降る中で行われ、気温も12℃とかなり寒い状態にもかかわらず、高齢者から子供まで約100人の住民が参加した。特に悪天候にもかかわらず、

実験は、この後参加者へのアンケート調査を実施して終了した。実験終了後も高台へ向かう階段に残る住民も数人おり、蓄光材の取り付け位置や取りつけの方向など、主催者と意見交換している光景も見られた。

一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所(漁村総研)は、4月20日(土)公益社団法人土木学会地震工学委員会「突発災害時における避難誘導に関する調査研究小委員会」

及び高知県黒潮町とともに、漁港漁村における夜間(暗闇時)の高台への避難について、蓄光材を使った避難誘導実験を漁業地域の住民の参加を得て実施した。

災害は真っ暗な夜間にも発生することや地震直後にはライフライン機能(電力機能)はダウンすることも考えなければならぬ。そして、避難は人の行動であることか

ら、地域の地形的特性や避難行動弱者(高齢者・子供・病人等)への対応などの課題解決に向け実施された。

今回の公開実験は、最大約20分の津波高が予想される黒潮町佐賀明神地区で、地震による停電を想定して街路灯を全て消

して行われた。出発地点であるカツオふれあいセンター黒潮一番館より避難高台入口までの100mの路上に25mの間隔で蓄光避難誘導標識を設置。高台入口から海抜21mの高台へつながる53段の階段は、手すりやステップなどに蓄光材が施されている区間、手すりに蓄光材がない区間及び蓄光材が全くない区間の条件が異なる三つの

高知県黒潮町で住民約100人が参加

ら、幼児を抱えた家族での参加が印象的であった。実験は、7時から1組5名程度、1分間隔で出発地点の黒潮一番館をスタートした。スタート後、7時30分位まで薄暮の状態だったが、徐々に暗闇が迫ると共に、蓄光材も明るくなり始めた。参加者からは、「予想より明るかった」といった声がかかれた。